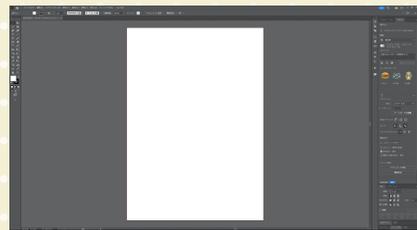


# 2-1 四角形を描く

はじめに四角形の描き方を練習しましょう。四角形の描き方だけでも、目的に応じてさまざまな方法があります。最終的には自分の好みの方法だけでもかまわないのですが、ほかの方法を知っているだけでも、作業が楽になる場面がでてきます。

## STEP 01 新規ドキュメントを開く



Illustratorを起動して、新規ドキュメントを開きます。アートワーク作成の第一歩です。

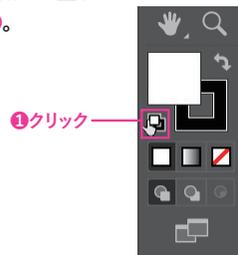
- 1 [ファイル]メニューから[新規]を選択します①。ホーム画面の[新規ファイル]をクリックしてもかまいません。



- 2 [新規ドキュメント]ダイアログボックスで、[印刷]をクリックし①、サイズに[A4]を選択して②、[作成]をクリックします③。



- 3 ツールバーの[初期設定の塗りと線]をクリックします①。



### ✓CHECK!

#### [塗り]と[線]を確認する

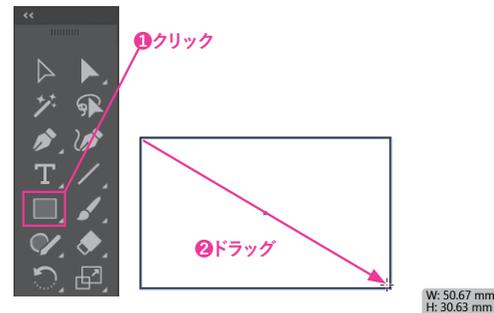
ツールバー下部や、コントロールパネルの左端に[塗り]と[線]の現在の状態が表示されています。ツールバーの[初期設定の塗りと線]をクリックすると、[塗り]が「ホワイト」に、[線]が「ブラック」に設定されます。これから描く図形は、この[塗り]と[線]の設定で作成されます。[塗り]と[線]の色をあらかじめ設定しておくことで、目的の色で図形を作成できます。

## STEP 02 ドラッグで長方形を描く

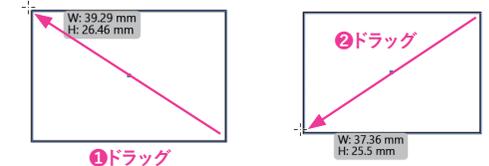


長方形ツールでドラッグすると、長方形を描くことができます。角丸長方形ツールでドラッグすると、角の丸い長方形を描くことができます。どちらも、描き方は同じです。

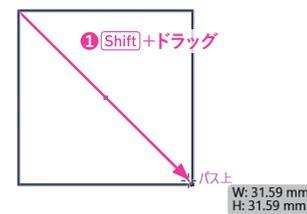
- 1 新規ドキュメントのツールバーで長方形ツールをクリックして選択し①、アートボード上でマウスをドラッグします②。ドラッグの距離に応じた大きさの長方形ができます。



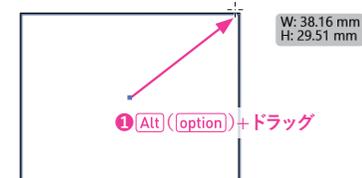
- 2 場所を変えて、別の方向にドラッグします①②。始点と同じでも、ドラッグする方向によって、長方形ができる位置が異なります。



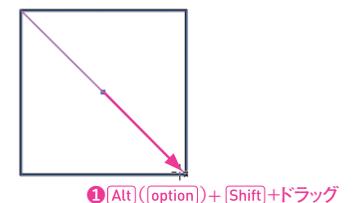
- 3 別の場所で、[Shift]キーを押しながらマウスでドラッグします①。[Shift]キーを押すことで、縦横比が同じになり、正方形を描くことができます。



- 4 別の場所で、長方形ツールを選択した状態で、[Alt] (option) キーを押しながらマウスをドラッグします①。[Alt] (option) キーを押すことで、図形の中心から長方形を描くことができます。



- 5 さらに場所を変えて、[Alt] (option) キーと[Shift]キーを同時に押しながらマウスをドラッグします①。中心から正方形を描くことができます。



### COLUMN

#### スマートガイドと数値表示

Illustratorは初期状態ではスマートガイドが有効になっており、この状態では、図形描画などを行った際に、カーソルの右下の位置に、現在の図形のサイズ(マウスの移動距離)が表示され、およその図形のサイズを決定できます。

# 4-3 ブラシで描く

ブラシツール  は、各種のブラシを適用して装飾的な線を描くのに使用します。後から修正できるパスの曲線となりますが、適用するブラシを変更することで、手書き風の見た目にできるメリットがあります。ここでは、基本的なドラッグでの描画操作を学びます。

## STEP 01 ブラシツールのドラッグで線を描く

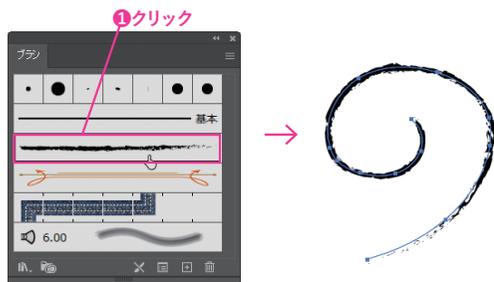


ブラシツール  の使い方は、鉛筆ツール  とほぼ同じで、ドラッグした形状のオブジェクトを描画します。描画したパスは、ブラシパネルで選択したブラシの形状となります。

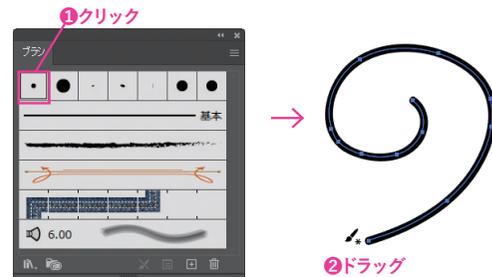
- 1** 新規ドキュメントを開きます。ブラシツール  のアイコンをダブルクリックして、[ブラシツールオプション] ダイアログボックスを表示します **①**。[選択を解除しない] にチェックをつけて **②**、[OK] をクリックします **③**。



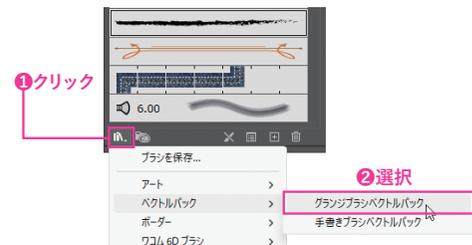
- 3** 選択を解除せず、ブラシパネルで別のブラシを選択してみましょう **①**。ブラシは、描画後のオブジェクトにも適用できます。



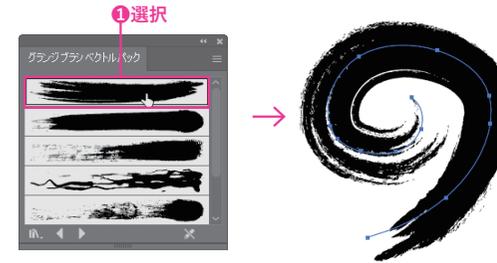
- 2** ブラシパネルで [5pt. 丸筆] をクリックして選択し **①**、簡単な線をドラッグして描いてみましょう **②**。鉛筆ツール  で描いた線を太くしたような線が描けます。



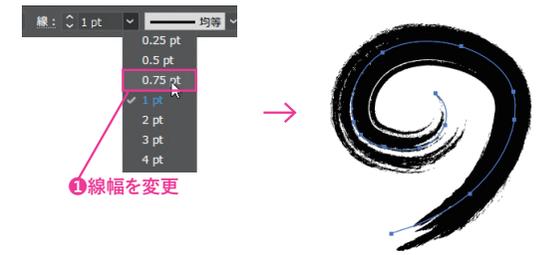
- 4** ライブラリから別のブラシを設定してみます。ブラシパネルの左下にある [ブラシライブラリメニュー] アイコンをクリックし **①**、プルダウンメニューから [ベクトルパック] → [グランジブラシベクトルパック] を選びます **②**。



- 5** グランジブラシベクトルパックパネルが開くので、一番上の [グランジブラシベクトルパック 01] を選択します **①**。



- 6** 続けて、コントロールパネルで線幅を「0.75pt」に変えてみましょう **①**。ブラシを適用したオブジェクトも、線幅を変更できます。

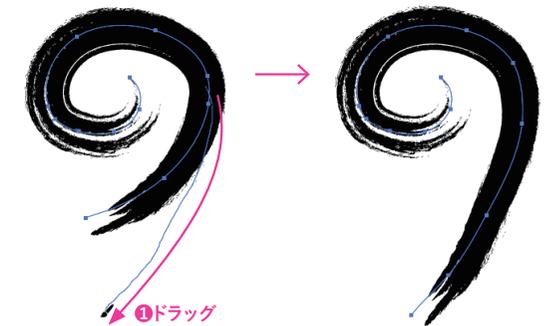


## STEP 02 ブラシツールのドラッグで線を修正する



ブラシツール  は、鉛筆ツール  と同様に描画済みの図形を簡単に修正することができます。

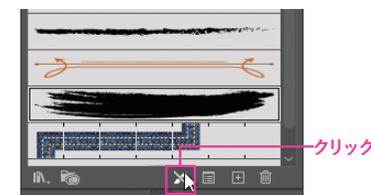
STEP01 で描いた線を修正してみましょう。ブラシツール  で選択されたオブジェクトの線を、修正したい方向へドラッグすると **①**、線が書き直されます。元の線と離れすぎると、新しい線が作成されるので注意してください。



### ✓CHECK!

#### ブラシを解除する

オブジェクトを選択し、ブラシパネル下部の「ブラシストロークを解除」ボタンをクリックすると、ブラシが解除され通常のパスに戻ります。



### COLUMN

#### ブラシの色

カリグラフィブラシ、絵筆ブラシは、[線]の色が適用されます。それ以外のブラシは、ブラシオプション (P.170 参照) の「着色」の設定によって決まります。

## STEP 01 合体・分割・消去

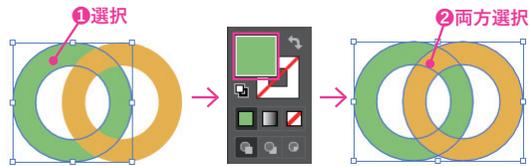


シェイプ形成ツールを使い、ドラッグ操作で選択したオブジェクトの重なっている部分を合成したり分割する方法を学びましょう。

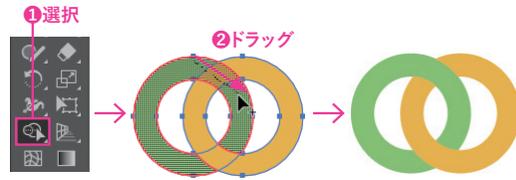
Lesson 07 ▶ L7-2S01.ai

### カラーを設定して合体

**1** レッスンファイルを開きます。選択ツールでオブジェクトの緑のオブジェクトを選択します**1**。これで、合体後のカラーは、緑の[塗り]となります。次に両方のオブジェクトをドラッグして選択します**2**。

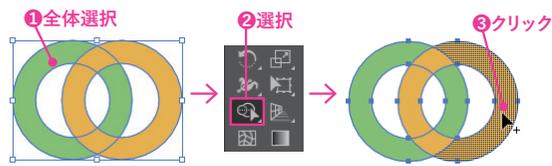


**2** シェイプ形成ツールを選択します**1**。図のようにドラッグすると**2**、アミ点の部分が合体します。

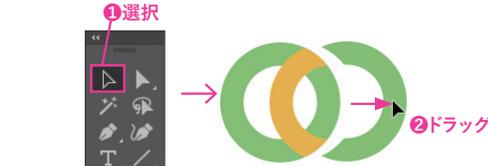


### クリックで分割

**1** 選択ツールでオブジェクト全体を選択します**1**。シェイプ形成ツールを選択し**2**、交差部分の右側にカーソルを合わせてクリックします**3**。

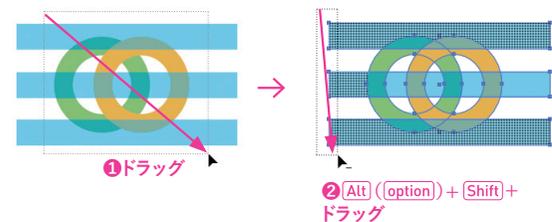


**2** クリックした部分が独立したオブジェクトになります。選択ツールを選択し**1**、一度選択を解除してからドラッグで移動して結果を確認します**2**。

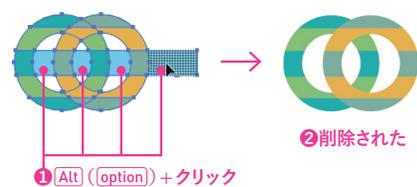


### 不要部分を消去

**1** オブジェクトの全体を選択ツールでドラッグして選択します**1**。シェイプ形成ツールで、**[Alt] (option)** キーと**[Shift]**キーを押しながら外側の長方形を選択します**2**。網の表示された部分が削除されます。



**2** 続けて、円と交差していない部分を**[Alt] (option)** キーを押しながらクリックして削除します**1**。クリックした箇所が削除されました**2**。



# 7-3 複合パスで穴を開ける

パスファインダーの型抜きと違い、複合パスは最背面のオブジェクトのカラーや効果を保存したまま前面に配置したオブジェクトので型抜きができます。穴の開いたオブジェクトは、複合パスとなりひとつのオブジェクトとして扱えます。解除して元に戻すこともできます。

## STEP 01 複合パスの作成と解除



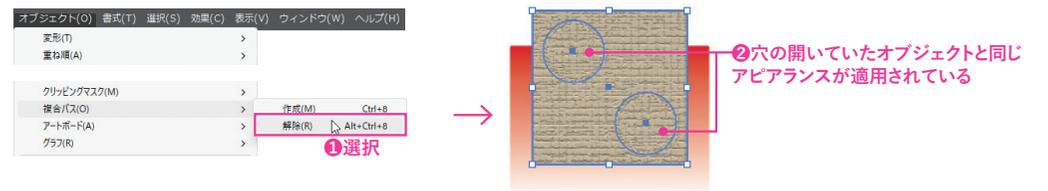
複合パスはオブジェクトに穴が開いた状態のオブジェクトです。パスファインダーパネルの[前面オブジェクトで型抜き]で作成されたオブジェクトも複合パスになります。

Lesson 07 ▶ L7-3S01.ai

**1** レッスンファイルを開きます。選択ツールで前面のオブジェクト3つを選択し**1**、[オブジェクト]メニュー→[複合パス]→[作成]を選択します**2**。前面のオブジェクトに穴が開いて、背面が見えるようになったことを確認します**3**。



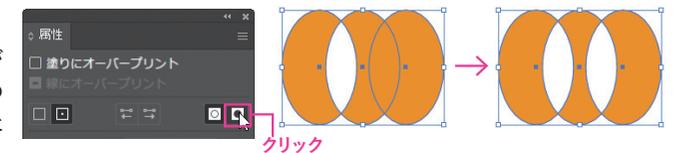
**2** 複合パスを選んだ状態で[オブジェクト]メニュー→[複合パス]→[解除]を選択します**1**。複合パスが解除され、穴が閉じて前面にあったオブジェクトも元に戻ります。前面のオブジェクトは、穴の開いていたオブジェクトと同じアピアランスが適用されていることを確認します**2**。



### ✓ CHECK!

#### 塗りの属性の変更

複合パスを作成して、重なった部分の穴がすべて開かなかったときは、属性パネルの[塗りに奇偶規則を使用]をクリックすると穴が開きます。

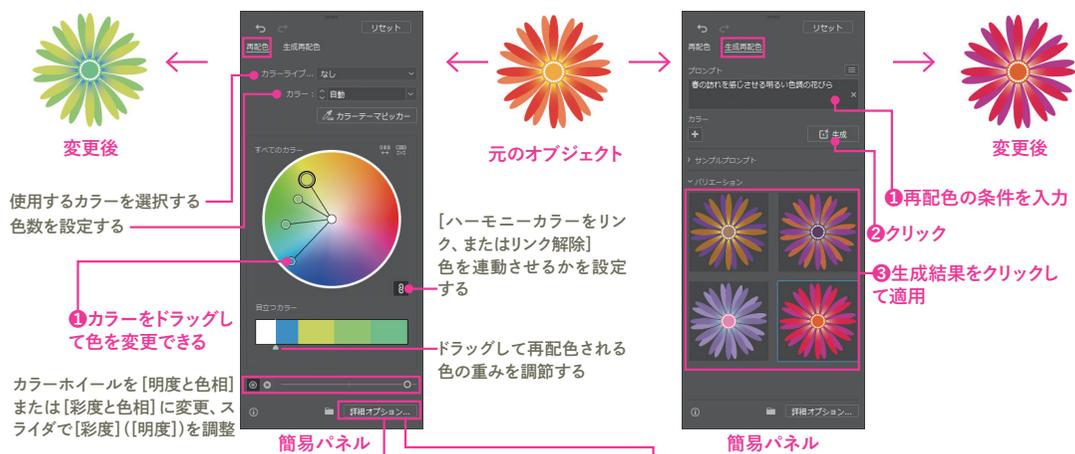


# 8-5 オブジェクトを再配色

グループ化したオブジェクトの色味を全体的に変更したり、減色したりするには「オブジェクトを再配色」を使うと便利です。複数のオブジェクトの全体を一括して色変更するので、ひとつひとつのオブジェクトを選択して色変更する手間が省けます。

## オブジェクトを再配色

[オブジェクトを再配色] ([編集]メニュー→[カラーを編集])は、選択したオブジェクトの色を一括して変更する機能です。[塗り]や[線]を個別に指定する必要はありません。はじめは簡易パネルにカラーホイールが表示されるので、オブジェクト内で使われているカラーをドラッグして直感的に色を変更できます。[生成再配色]を使うと、AIを活用し、できあがりのイメージを文章で指定して再配色できます。[詳細]オプションをクリックすると、[オブジェクトを再配色]ダイアログボックスが表示されます。[指定]画面では、それぞれの色を選択してカラー値を調整できます。プリセットを使用して、指定した色数に減色することもできます。そのほか、カラーハーモニーを使った色の変更など、さまざまな方法でオブジェクト全体の色を変更できます。[編集]画面では、簡易パネルと同様にカラーホイールでカラーをドラッグして直感的に色を変更できます。



## STEP 01 複数のオブジェクトの色を変更する

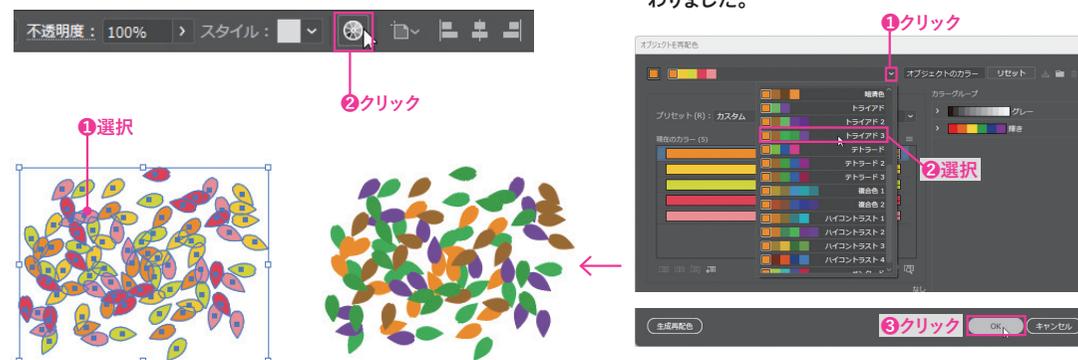


[オブジェクトを再配色]を使って、複数のオブジェクトの色を一括に変更しましょう。変更する方法はたくさんあるので、いろいろ試してみてください。

Lesson08 ▶ L8-5S01.ai

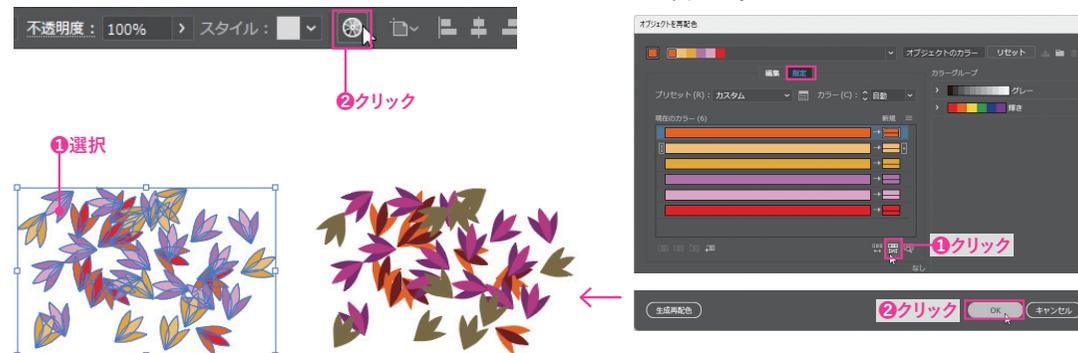
### ハーモニールールを使用

- 1 レッスンファイルを開きます。グループオブジェクト[A]を選択します①。コントロールパネル(またはプロパティパネル)で「オブジェクトを再配色」をクリックするか②、[編集]メニュー→[カラーを編集]→[オブジェクトを再配色]を選択します。
- 2 簡易パネルの[詳細オプション]をクリックして、[オブジェクトを再配色]ダイアログボックスを表示します。[指定]画面で[ハーモニールール]のVをクリックして①、表示されたリストから[トライアド3]を選択し②、[OK]をクリックします③。オブジェクト全体の色が変わりました。

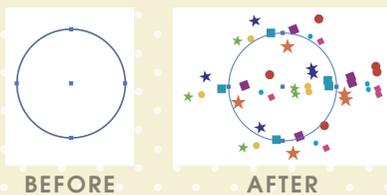


### カラーをランダムに変更

- 1 グループオブジェクト[B]を選択します①。コントロールパネル(またはプロパティパネル)で「オブジェクトを再配色」をクリックするか②、[編集]メニュー→[カラーを編集]→[オブジェクトを再配色]を選択します。
- 2 簡易パネルの[詳細オプション]をクリックすると[オブジェクトを再配色]ダイアログボックスが表示されます。「指定」画面を選択し、[彩度と明度をランダムに変更]をクリックして①、[OK]をクリックします②。オブジェクトの色の「彩度」と「明度」がランダムに変わりました。



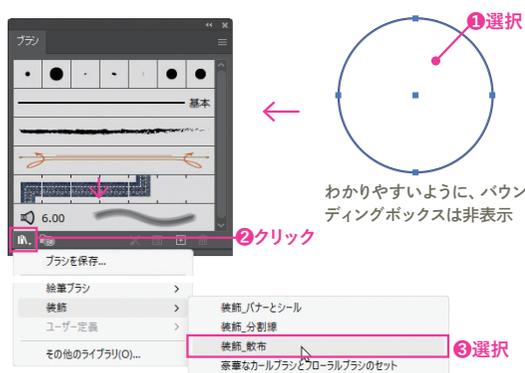
## STEP 01 ブラシの適用と設定



細かいオブジェクトをパスに沿って配置したいときに便利なのが散布ブラシです。ライブラリに入っているブラシを上手に利用しましょう。

Lesson09 ▶ L9-3S01.ai

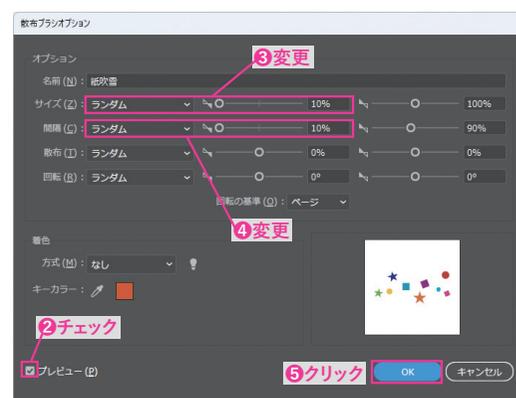
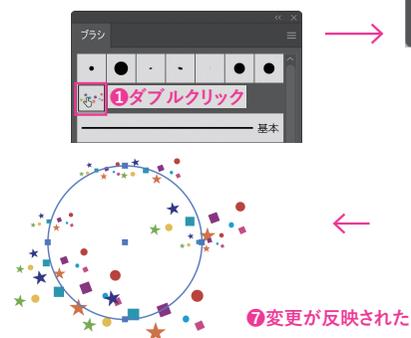
- 1 レッスンファイルを開きます。選択ツール でオブジェクトを選択します①。ブラシパネルの[ブラシライブラリメニュー]をクリックし②、表示されたメニューから[装飾]→[装飾\_散布]を選択します③。



- 2 装飾\_散布パネルが表示されるので[紙吹雪]をクリックします①。オブジェクトにブラシが適用されました②。使ったブラシは、ブラシパネルに追加されます。



- 3 ブラシパネルに表示された「紙吹雪」をダブルクリックすると①、[散布ブラシオプション]ダイアログボックスが表示されます。[プレビュー]をチェックし②、プレビューを見ながら数値や設定を変更してみましょう。ここでは、[サイズ]を[ランダム]、最小値を「10%」に③、[間隔]を[ランダム]、最小値を「10%」に変更します④。変更後[OK]をクリックします⑤。適用を選択するダイアログボックスが表示されるので[適用]をクリックします⑥。変更したブラシが、オブジェクトに反映されます⑦(「サイズ」「間隔」がランダムに変わるので作例と同じにはなりません)。



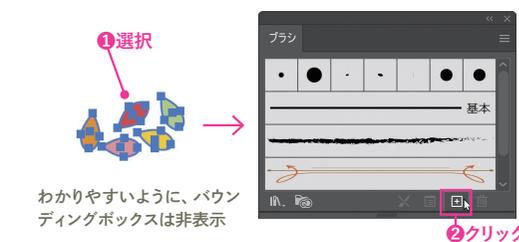
## STEP 02 ブラシを登録する



オリジナルのブラシを作成して登録することもできます。ここでは、散布ブラシを例に登録してみましょう。

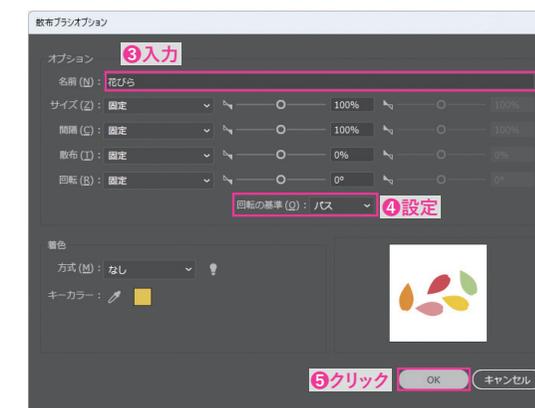
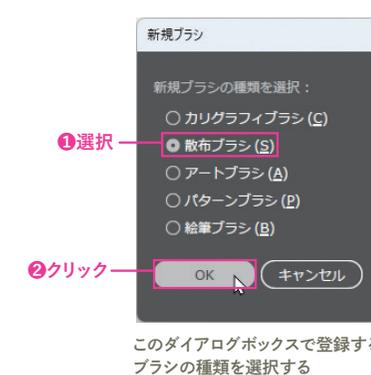
Lesson09 ▶ L9-3S02.ai

- 1 レッスンファイルを開きます。グループオブジェクト を選択ツール で選択します①。このオブジェクトを散布ブラシに登録します。ブラシパネルの[新規ブラシ]をクリックします②。



アートブラシ、パターンブラシも同様に登録できる。カリグラフィブラシ、絵筆ブラシを登録するときはオブジェクトを選択せずにブラシパネルの[新規ブラシ]をクリックする

- 2 [新規ブラシ]ダイアログボックスが表示されるので[散布ブラシ]を選択し①、[OK]をクリックします②。[散布ブラシオプション]ダイアログボックスが表示されるので、オプションを設定します。設定内容については、P.170の「散布ブラシオプション」を参照ください。ここでは名前に「花びら」と入力し③、[回転の基準]を[パス]に設定し④、[OK]をクリックします⑤。



- 3 ブラシパネルに新しいブラシが登録されるので、実際に使ってみましょう。選択ツール で、円のオブジェクト を選択し①、ブラシパネルで登録されたブラシをクリックします②。ブラシが適用されました③。



# 11-1 オブジェクトの不透明度

Illustratorでは、オブジェクトに不透明度を設定できます。不透明度は、透明パネル、コントロールパネル、プロパティパネルで設定します。アピアランスパネルを使うと、オブジェクトの「塗り」と「線」に対して個別に不透明度を設定できます。

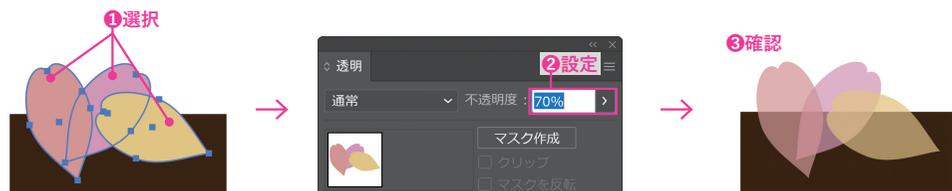
## STEP 01 透明パネルで不透明度を設定する



シンプルに不透明度を設定してみましょう。オブジェクトが透けて見えるだけで、アートワークの見栄えが変わります。

Lesson11 ▶ L11-1S01.ai

- 1 レッスンファイルを開きます。選択ツール で花びら形のオブジェクト3つを選択します①。透明パネルの「不透明度」を「70%」に設定します②（コントロールパネルまたはプロパティパネルの「不透明度」でも設定できます）。選択を解除して、3つのオブジェクトが互いに透明になり、重なり合って表示されることを確認します③。



- 2 選択ツール で、不透明度を設定した花びら形のオブジェクト3つを選択します①。【オブジェクト】メニュー→【グループ】を選択してグループ化します②。



- 3 オブジェクトが選択された状態で、透明パネルの「グループの抜き」にチェックをつけます①。全体は透けていますが、オブジェクトが重なり合った部分は透けなくなります。再度選択し、「グループの抜き」のチェックをはずします②。重なり合った部分も透明になり合成されます。



## STEP 02 アピアランスパネルで不透明度を設定する



アピアランスパネルでは、オブジェクト全体だけでなく、「塗り」、「線」それぞれに不透明度を設定することもできます。

Lesson11 ▶ L11-1S02.ai

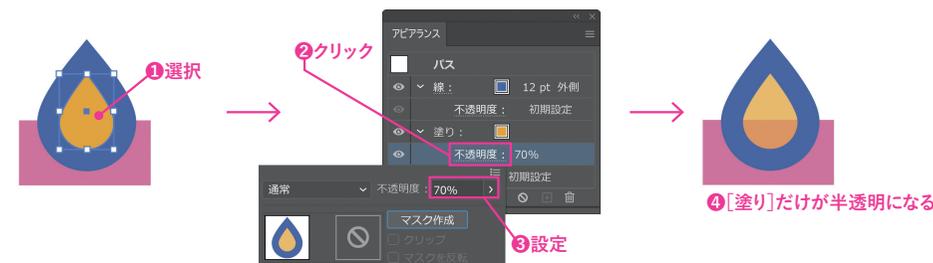
### 全体に不透明度を設定

- 1 レッスンファイルを開き、選択ツール で水滴型のオブジェクトを選択します（「線」が「線を外側に揃える」になっています）①。アピアランスパネルで「線」と「塗り」の「>」をそれぞれクリックして「不透明度」を表示させます②。
- 2 アピアランスパネルの1番下の「不透明度」をクリックし①、表示された透明パネルで「不透明度」を「70%」に設定します②。オブジェクト全体に不透明度が適用されます。



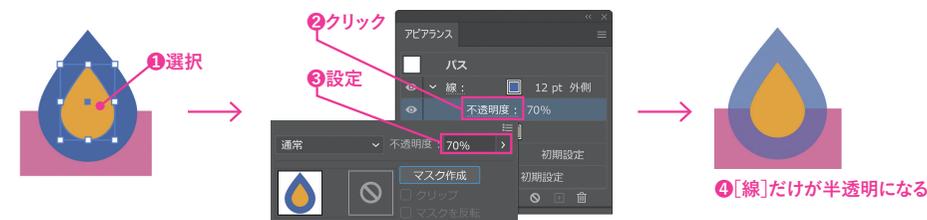
### 塗りに不透明度を設定

- 1 水滴型のオブジェクトを選択します①。アピアランスパネルで「塗り」の「不透明度」をクリックし②、表示された透明パネルで「不透明度」を「70%」に設定します③。「塗り」だけに不透明度が適用されたことを確認します④。



### 線に不透明度を設定

- 1 水滴型のオブジェクトを選択します①。アピアランスパネルで「線」の「不透明度」をクリックし②、表示された透明パネルで「不透明度」を「70%」に設定します③。「線」だけに不透明度が適用されたことを確認します④。



# 12-5 リピート

リピートコマンドの[ラジアル][グリッド][ミラー]を使うと、ひとつのオブジェクトから回転コピー・上下左右のコピー・反転コピーができます。[グリッド]を使うとパターンも作成できます。従来のパターン作成より操作は簡単ですがやや微調整しにくいので、必要に応じて使い分けるとよいでしょう。

## STEP 01 ラジアルでコピーを作る



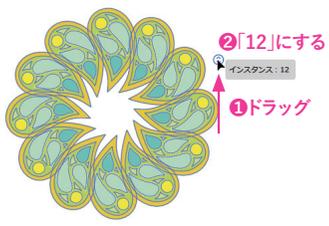
元のオブジェクトのインスタンス(見かけ上のコピー)を円形に並べます。[オブジェクト]→[リピート]→[解除]で元のオブジェクトに戻せます。

Lesson12 ▶ L12-5S01.ai

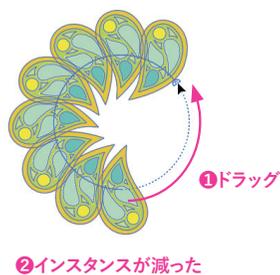
**1** レッスンファイルを開き、選択ツールでオブジェクトを選択し①、[オブジェクト]メニュー→[リピート]→[ラジアル]を選択します②。選択したオブジェクトのインスタンスが回転コピーした状態が表示されます③。



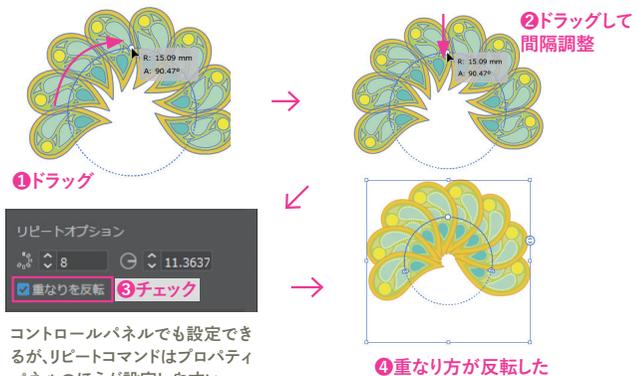
**2** 右側の[インスタンス数]コントロール①の上にドラッグして①、インスタンス数を「12」にします②。



**3** 円の右下側に表示された分割線①の右側②をドラッグして①、インスタンスの数を減らします②。



**4** 円の左側に表示されたOを時計回りにドラッグして左右のバランスがよくなるように調節し①、下にドラッグしてインスタンスの間隔を狭くします②。次にプロパティパネルのリピートオプションの[重なりを反転]のチェックをつけます③。重なり方が反転します④。



コントロールパネルでも設定できるが、リピートコマンドはプロパティパネルのほうが設定しやすい

## STEP 02 グリッドでコピーを作る



[グリッド]を使うと、上下左右にリピートするインスタンスを作成でき、直感的な操作でパターンを作成できます。

Lesson12 ▶ L12-5S02.ai

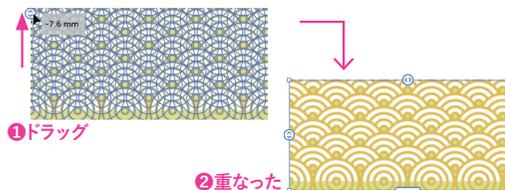
**1** レッスンファイルを開き、選択ツールでオブジェクトを選択し①、[オブジェクト]メニュー→[リピート]→[グリッド]を選択します②。8個のリピートインスタンスが表示されます③。



**2** プロパティパネルのリピートオプションで、[グリッドの水平方向の間隔]を「0」に設定します①。続けて[グリッドの種類]で[水平方向オフセットグリッド]を選びます②。左右がびつたりくつき、上の行のインスタンスは半分ずれた状態になります③。



**3** 左側の垂直スライダー①を上へドラッグして①、インスタンスが重なるように間隔を調節します②。作例では、プロパティパネルの[グリッドの垂直方向の間隔]が「-7.6mm」になっています。



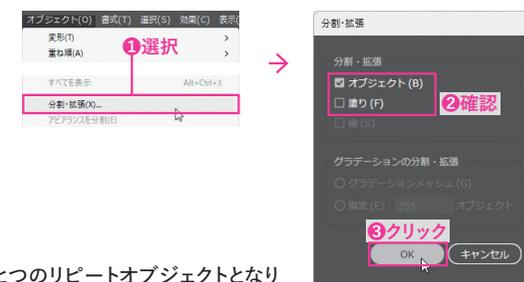
**4** プロパティパネルで、[行を反転]の[垂直方向に反転]をクリックします①。1行ごとにオブジェクトが反転します②。



**5** 続けてプロパティパネルで[列を反転]の[垂直方向に反転]をクリックします①。1列ごとにオブジェクトが反転します②。



**6** [オブジェクト]メニュー→[分割・拡張]を選びます①。[分割・拡張]ダイアログボックスが表示されるので、[オブジェクト]だけにチェックをつけて②、[OK]をクリックします③。



### ✓CHECK!

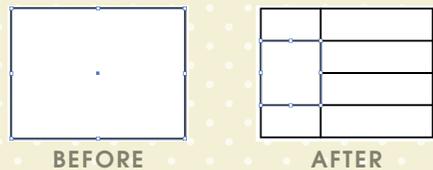
#### リピートオブジェクトの解除と分割・拡張

[リピート]で作成したオブジェクトは、グループ化されたひとつのリピートオブジェクトとなります。[オブジェクト]メニュー→[リピート]→[解除]で、元のオブジェクトに戻ります。[オブジェクト]メニュー→[分割・拡張]で、リピートした状態のまま通常のオブジェクトになります。

# 13-1 表を描く

Illustratorには作表専用の機能はありませんが、[グリッドに分割]機能を用くと、表の枠部分を効率的に描くことができます。また、作成した枠にテキストオブジェクトのリンク機能を適用すれば、文字の入力も効率的に行えます。

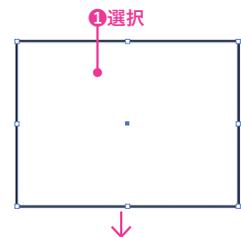
## STEP 01 表の枠を作成する



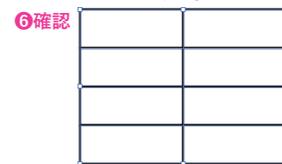
[グリッドに分割]を利用して、表の枠線を作成します。いろいろ設定を変えて試してみてください。

Lesson13 ▶ L13-1S01.ai

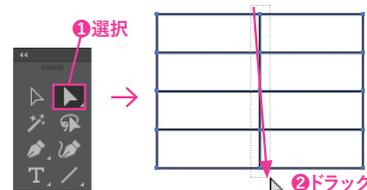
1 レッスンファイルを開き、選択ツール で長方形を選択します①。この長方形は幅が40mm、高さが30mmです。[オブジェクト]メニュー→[パス]→[グリッドに分割]を選択します②。



2 [グリッドに分割]ダイアログボックスが表示されるので、[行]の[段数]に「4」①、[間隔]に「0」②、[列]の[段数]に「2」③、[間隔]に「0」と入力し④、プレビューにチェックをつけます⑤。長方形が4行2列の表になったことを確認して⑥、[OK]をクリックします⑦。作成された表は、8つの小さな長方形でできています。

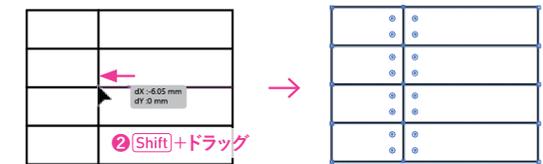


3 ツールバーで直接選択ツール を選択します①。中央の線を囲むようにドラッグして中央のアンカーポイントを選択します②。



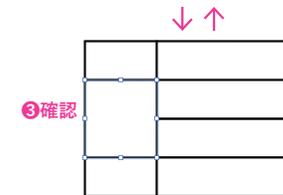
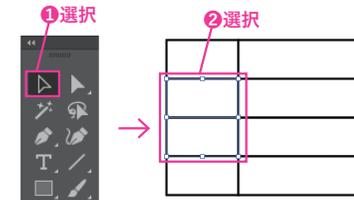
4 移動距離がわかるように[Ctrl] (command) キー + [U]キーを押してスマートガイドをオンにします① (オンの場合はそのまま)。選択した中央のアンカーポイント(Shift)キーを押しながら左にドラッグして、6mm程度移動させます②。この後は、スマートガイドはオフの状態の説明します。

① [Ctrl] (command) + [U]キーでスマートガイドをオン



5 選択ツール を選択します①。左の列の2行目と3行目の四角形を選択します②。[オブジェクト]メニュー→[パス]→[グリッドに分割]を選択します③。

6 表示された[グリッドに分割]ダイアログボックスで、[行]の[段数]に「1」と入力して①、プレビューにチェックをつけます②。ふたつの長方形がひとつになったことを確認して③、[OK]をクリックします④。



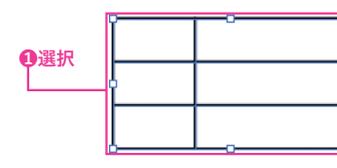
## STEP 02 表にテキストを入力する



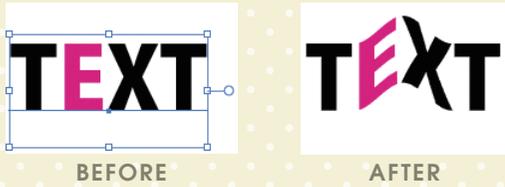
[グリッドに分割]で作成した表のオブジェクトを、リンクしたテキストエリアオブジェクト(スレッドテキスト)に変換して、テキストを入力していきます。

Lesson13 ▶ L13-1S02.ai

1 レッスンファイルを開きます。選択ツール で、表のオブジェクト全体を選択し①、[書式]メニュー→[スレッドテキストオプション]→[作成]を選択します②。



STEP 02 エンベロープをメッシュで作成する



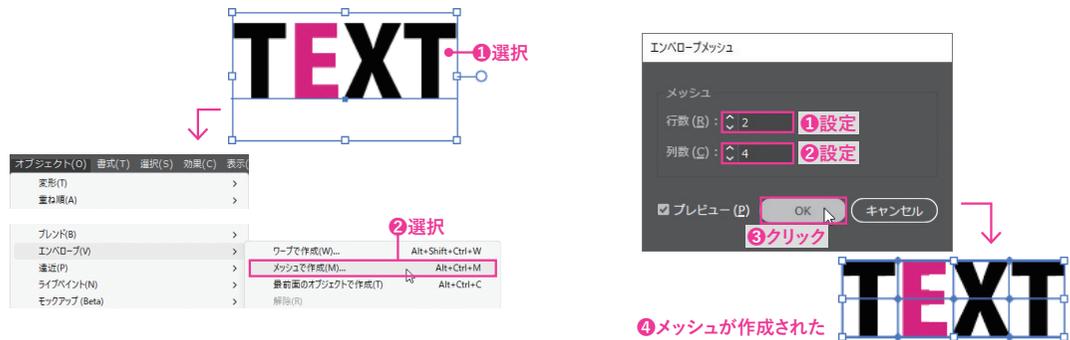
メッシュを作成して、ポイントや方向線をドラッグして変形します。変形が不要になった場合は「ワープ」と同様に解除できます。

Lesson14 ▶ L14-2S02.ai

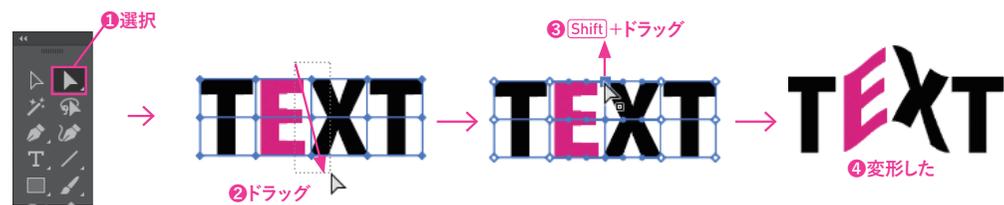
メッシュを作成して変形

1 レッスンファイルを開き、選択ツール でテキストオブジェクト を選択します **1**。[オブジェクト]メニュー → [エンベロープ] → [メッシュで作成] を選択します **2**。

2 [エンベロープメッシュ]ダイアログボックスが表示されたら、[行数]を「2」**1**、[列数]を「4」**2**に設定して、[OK]をクリックします **3**。指定した数のメッシュが作成されます **4**。



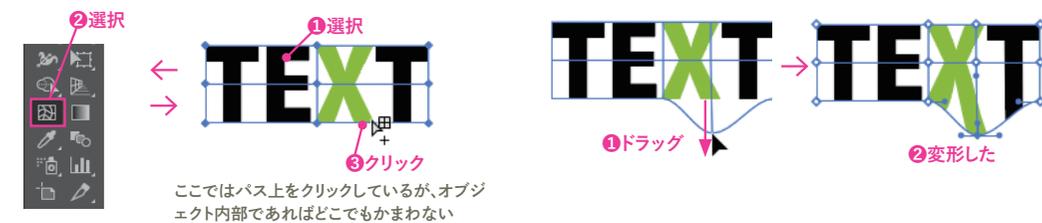
3 ダイレクト選択ツール を選択します **1**。「E」と「X」の間のアンカーポイントをドラッグして選択します **2**。選択したアンカーポイントを、上方向に[Shift]キーを押しながらドラッグします **3**。メッシュに沿って文字が変形しました **4**。



メッシュツールでポイントを追加

1 選択ツール でオブジェクト を選択します **1**。メッシュツール を選択し **2**、オブジェクト内の適当な場所をクリックしてポイントを追加します **3**。

2 作成したポイントをドラッグします **1**。メッシュが変形し、オブジェクトも変形します **2**。



ここではパス上をクリックしているが、オブジェクト内部であればどこでもかまわない

STEP 03 エンベロープを最前面のオブジェクトで作成する



エンベロープでは、用意しておいたオブジェクトの形状に変形することもできます。

Lesson14 ▶ L14-2S03.ai

最前面のオブジェクトで作成

レッスンファイルを開きます。選択ツール でオブジェクト のテキストと円のふたつのオブジェクトを選択します **1**。[オブジェクト]メニュー → [エンベロープ] → [最前面のオブジェクトで作成] を選択します **2**。背面にあったテキストオブジェクトが、前面の円の形状に変形しました **3**。



エンベロープオプション

1 選択ツール でオブジェクト のふたつのオブジェクトを選択します **1**。[オブジェクト]メニュー → [エンベロープ] → [最前面のオブジェクトで作成] を選択します **2**。前面のオブジェクトで型抜きされた状態になります。

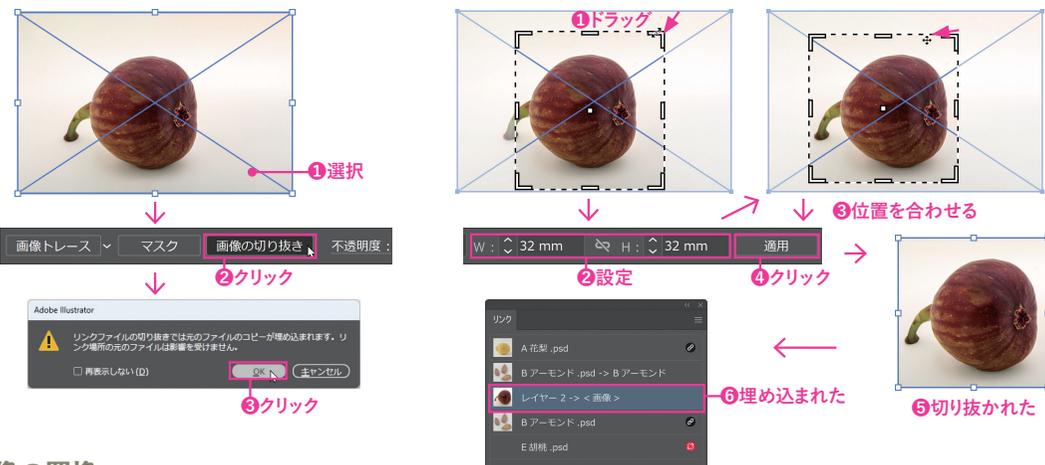
2 コントロールパネルの[エンベロープオプション]をクリックし **1**、[エンベロープオプション]ダイアログボックスを表示します。[線形グラデーションの塗りを変形]にチェックをつけ **2**、[OK]をクリックします **3**。前面オブジェクトの[塗り]のグラデーションが、前面オブジェクトの形状にあわせてかかるとなります **4**。



4 [塗り]のグラデーションが前面オブジェクトの形状にあわせてかかる

## 画像の切り抜き

- 1 画像を選択します①。コントロールパネルで「画像の切り抜き」をクリックします②。警告ダイアログボックスが表示されるので [OK] をクリックします③。
- 2 トリミング枠が表示されるので、ハンドルをドラッグするか①、コントロールパネルで数値入力してサイズを設定します(ここでは [W] [H] を「32mm」に設定)②。ドラッグして位置を合わせ③、[適用] をクリックします④。画像が切り抜かれました⑤。画像は埋め込まれるので、リンクパネルではアイコンが消えます⑥。



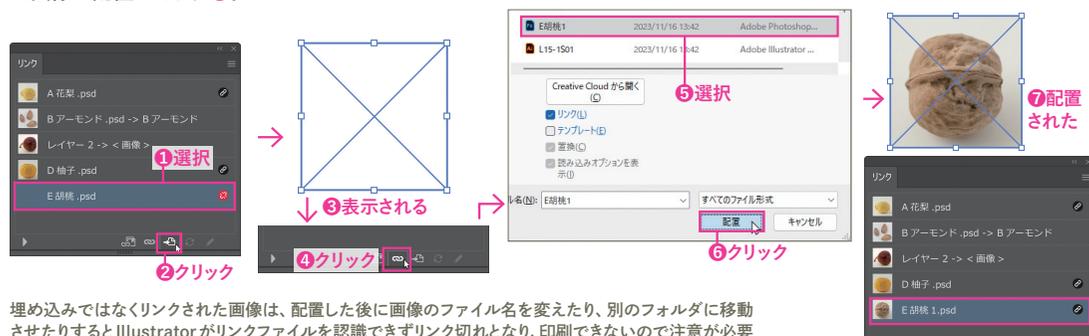
## 画像の置換

画像を選択します①。リンクパネルで[リンクを再設定]をクリックします②。[配置]ダイアログボックスが表示されるので、「D 柚子.psd」を選択し③、[配置]をクリックします④。画像が置換され、リンクパネルの表示も置換されます⑤。



## 画像の再リンク

リンクパネルで「E 胡桃.psd」を選択し①、[リンクへ移動] をクリックします②。本来は配置されたリンク画像が選択されますが、リンク切れのため画像は表示されず、バウンディングボックスだけが選択されます③。リンクパネルで [リンクを再設定] をクリックします④。[配置] ダイアログボックスが表示されるので、「E 胡桃 1.psd」を選択し⑤、[配置] をクリックします⑥。選択した画像が配置されます⑦。



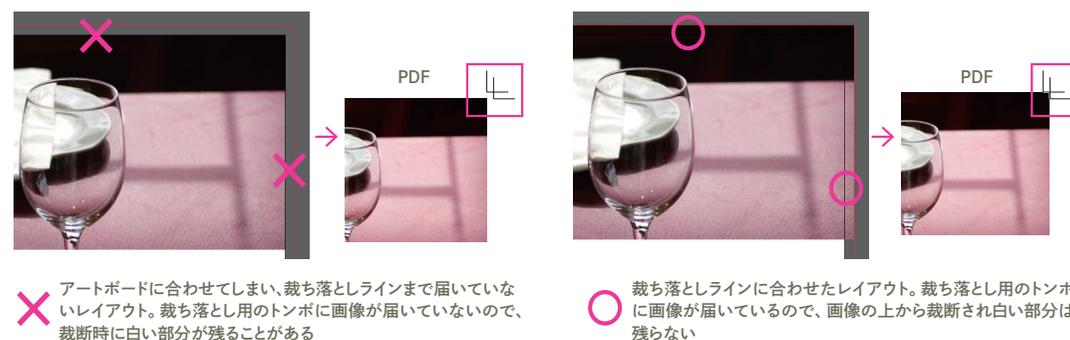
埋め込みではなくリンクされた画像は、配置した後に画像のファイル名を変えたり、別のフォルダに移動させたりするとIllustratorがリンクファイルを認識できずリンク切れとなり、印刷できないので注意が必要

# 15-2 印刷用データを作成する

商業印刷用のデータ作成でもっとも気をつけたいのは、カラーをCMYKモードで作成することです。また、カラーモード以外に注意したいポイントとして、トンボの作成があります。ここでは、印刷用データの作成について学びましょう。

## 裁ち落としに注意

商業印刷物作成時の、用紙の端いっぱいまで色の付いた画像やオブジェクトを印刷する場合、紙を裁断する際の余白としてアートボードよりも若干はみ出した状態でレイアウトします。オブジェクトや画像が、裁ち落としラインまで出た状態でレイアウトされているかを必ず確認するようにしてください。印刷物は、裁ち落としラインに合わせてトンボが出力され、トンボに合わせて裁断されます。



✕ アートボードに合わせてしまい、裁ち落としラインまで届いていないレイアウト。裁ち落とし用のトンボに画像が届いていないので、裁断時に白い部分が残ることがある

○ 裁ち落としラインに合わせてレイアウト。裁ち落とし用のトンボに画像が届いているので、画像の上から裁断され白い部分は残らない

## 複数のアートボード

Illustratorでは複数のアートボードを利用できます。ページ数の少ないフライヤーなどは、Illustratorで作成できます。ただし、ページ数の多い出版物などの制作は、InDesignのようなページレイアウトソフトを利用するほうが、ページ管理やマスターページなどが利用できて効率的です。作成する印刷物の用途に合わせて、IllustratorとInDesignを使い分けるといいでしょう。



ページ数の少ないフライヤーなどは、複数のアートボードを使うとIllustratorだけで制作できる

### COLUMN

#### トリミング表示

[表示]メニュー→[トリミング表示]を選択すると、アートボードの外側部分を非表示にして、アートボード内だけを表示できます。裁ち落としのあるアートワークを制作する際、仕上がりを確認するのに便利な機能です。